



2 後援会だより

Feb 2020 Vol. 41

第12回 保育フェスティバルを開催しました

オープキャンパス・保育フェスティバル検討委員会 戸敷 早苗
 今年は、学校法人宮崎学園の創立80周年を記念し、第12回保育フェスティバルを開催しました。昨年を上回る407名の方々にご参加いただきました。年々参加者も増加傾向にあり、毎年楽しみに来られる地域の方々や卒業生、そして、今年は宮崎学園高校生をはじめ多くの高校生の参加もあり、本学への理解や魅力発信の機会にもなったと思います。

保育フェスティバルは、保育士・幼稚園教諭を目指す保育科・専攻科学生が日頃の学修成果を発表する場でもあり、今年は84名の学生が参加しました。学生たちは実習後から、授業の空き時間や放課後等の僅かな時間を使って準備・練習に励んできました。当日は、子どもたちや保護者の方々に笑顔で丁寧に接する姿が印象的で、学生たちの成長が感じられる瞬間でもありました。今後も保育フェスティバルを本学の伝統行事として広く地域の方々を知っていただき、毎年楽しみにご参加いただけるものにしていきたいと思ひます。

	1回目		2回目	
日時	令和元年10月19日 10:00~12:00		令和元年11月30日 10:00~15:00	
場所	宮崎学園短期大学 (交流センター)		イオンモール宮崎 (2階イオンホール)	
参加者数	大人	53人	大人	132人
	高校生	5人	高校生	44人
	中学生	5人	中学生	2人
	小学生	16人	小学生	6人
	2歳以上の未就学児	20人	2歳以上の未就学児	62人
	0.1歳児	16人	0.1歳児	46人
合計	115人	合計	292人	



卒業式・修了式のご案内

令和元年度卒業証書・学位記授与並びに修了書授与式を下記のとおり執り行います。多数の保護者の皆様のご出席をお待ち申し上げます。

なお、式終了後各教室にて学級主任から、卒業証書を受けることになっております。

日時・令和2年3月19日(木)10時~ 場所:本学体育館

後援会総会のご案内

宮崎学園短期大学後援会総会を下記のとおり開催いたします。決算、予算の承認及び役員選出を予定しております。

日時:令和2年4月7日(火)11時30分~(入学式終了後)
 場所:本学体育館

地域交流研究センター活動報告

地域交流研究センター委員長 東 真美子

宮崎学園短期大学地域交流研究センターの活動状況を報告します。

地域交流研究センターは、地域との情報交換や交流活動を通して本学の地域貢献を推進することを目的とし、教職員の専門性を活かした生涯学習の機会の提供や、学生の主体的・貢献的なボランティア活動を推進しています。

まずは、教職員の地域貢献活動の報告です。7月には、今年で11回目を迎えた『保育研修会』を実施しました。県内の保育所や幼稚園、認定こども園に勤務する41名の保育者を対象に「たのしいリトミック」と「子どもの音楽あそび」の研修を行い、保育者の指導技術の向上に貢献しました。9月には、一般市民を対象にした『ニューライフアカデミー』と『シニアいきいきセミナー』、そして子育て中の親子を対象にした『子育て支援セミナー』を実施しました。『ニューライフアカデミー』は「万葉集を読む~草花の歌あれこれ~」をテーマに、令和にまつわる歌や草花の歌の内容を読み解きながらその風情を味わう講座でした。また、『シニアいきいきセミナー』は「初心者向けピアノ講座~頭・指・心の体操~」をテーマに、主に高齢者を対象として音楽やピアノ演奏を楽しむ講座でした。そして『子育て支援セミナー』はおおよそ0~1歳児の保護者を対象に、子育て不安解消の一助として五感を使った音楽遊びや親子ふれあいの場の提供、子育て相談を行いました。いずれも、参加者アンケートにおいて好意的なご意見や感謝の言葉をいただいております。今後の活動の励みとなりました。感謝しております。

次に、学生の地域貢献活動の報告です。学生は一般ボランティアへの参加とともに、保育科においてはボランティア実習の授業、現代ビジネス科においては実践ビジネス演習や現代ビジネス論の授業でも地域貢献活動を行っています。一般ボランティアでは、延べ29名の学生がボランティア活動を行っています。そして保育科の学生は、保育所や子育て支援センターにおける読み聞かせを行ったり、幼稚園の運動会スタッフ、清武町イルミネーション点灯式等に参加しました。また、現代ビジネス科の学生は「かのうinフェスタ」における企画運営のお手伝いや、地元の企業の魅力を発信する動画の制作等を行いました。毎年1月に本学で開催している地域交流推進委員会では、地域の関係者の方々から本学学生の活躍へのお礼と今後への期待の言葉をいただいております。

地域交流研究センターは、今後も教職員や学生の地域貢献を推進し、地域に開かれた短大を目指していきたいと思ひます。

現在の就職状況

就職指導課 田村 広美

全国的に就職率は好転し、「売り手市場」といわれていますが、厳しい就職戦線を打破し、内定をいただいている状況に変わりはないので、企業訪問や説明会への参加、筆記試験対策等の各自の積極的な就職活動は必要となります。

また、保育園・幼稚園、施設等は、昨年度同様に求人数も多く、就職希望者の8割が年内に内定をいただいております。まだ、進路の決定していない学生の皆さんも諦めずに活動を続けていきましょう。



保育フェスティバルの様子

聞き上手こそ、人づきあい上手

「コミ障」という言葉が自虐的に、あるいは他虐的に使われる。コミュニケーション障害の略である。他人とのコミュニケーションに苦手感を持っている人は多い。ネット空間で暮らす時間が増えているのに対し、リアルなコミュニケーションの体験が、一昔前と比べると恐ろしく貧弱になっている。同世代とのコミュニケーションでも、小さな仲間にも集まりしがちである。だから異世代とのコミュニケーションになれば、なおさらハードルは高く感じる。しかし社会へ出て行くということは、あらゆる人とコミュニケーションをとることを意味する。

他人に話しかけるのが苦手と言う人は多い。話し下手だから、人づきあいは苦手と尻込みしている。しかしよく考えて欲しい。話し上手な人が人づきあい上手だろうか。あなたは自分の意見をどんどん押しつけてくる人を好きになれるだろうか。誰でもそんな人を好きにはなれない。好きになれるのは、自分に関心を持ってきて自分の気持ちを理解してくれる人だ。

人間関係は受容から始まる。相手に関心を持ち、気遣い、気持ちを汲むことから人間関係はできていく。相手は自分が受容されていると感じれば、あなたに心を開いていく。コミュニケーションが始まるのだ。人づきあい上手は話し上手な人ではなく、聞き上手な人なのだ。聞き上手を目指して欲しい。

「売り言葉に買い言葉」はケンカの原理である。コミュニケーションにはならない。自分の言いたいことを先に主張すると、ケンカになる恐れがある。しかし相手の気持ちを聞くだけでは、コミュニケーションにならないと思うかもしれない。ところが先に相手の言いたいことをしっかり受容してあげると、相手には安心が生まれ、こちらの考えもけんか腰にならずに聞く余裕が生まれる。だから、相手の言いたいことをしっかり受け止めてから、自分の言いたいことを言うケンカにならないコミュニケーションが生まれる。聞き上手は人づきあい上手になれるのである。



学長 宗和 太郎

輝ける忍ヶ丘(学生の成長)

保育科

2年間の成長～実習報告会での感動～

保育科長 泰田 久史

4年前から、保育科では12月に実習の総まとめとして1・2年合同実習報告会を学内で開催しています。これは全ての実習を終えた2年生が、実習での学びを学友やこれから実習に向かう1年生に向けて発表するものです。

今回も、1年生の最初の実習では不安でたまらなかった学生や自分の甘さに気付いた学生、上手くできなくて泣いた学生が、堂々と胸を張り、笑顔で自分の体験談を語る姿に心からの感動を覚えました。

まさに学生の大きな成長を感じた瞬間であり、保育科の使命を改めて実感した場面でもありました。

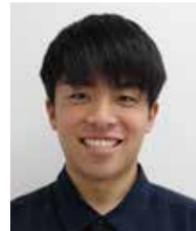
これからも学生の成長のため学科職員一丸となって取り組んでいきたいと思っておりますので、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。



2年間の学生生活を通して思うこと

保育科2年 黒田 涼太

長いようでとても短い2年間の学生生活でした。思い返せば2年前。私は、保育とは無縁の工業系の高校に通っていました。高校卒業時には、システムエンジニアになって東京で就職しようと考えていました。しかし、一度諦めてしまった夢である保育士を諦めきれずに、宮短に入学することを決めました。宮短での学生生活は各科目の課題やピアノの技能習得、学外での実習など目まぐるしい毎日でした。当然、上手くいくことは少なく、失敗の連続でした。正直、挫けて学校に行くことが嫌になる日もありました。そんな中でも諦めずに2年間通えたのは共に支えあった友人、親身になってくれる先生、指導してくださった実習先の先生方がいてくれたからだと思えます。たくさんの周りの人のおかげで成長することができました。また、この大学での出会いは大切にしたいです。そして、中でも特に強調したいことが、この2年間の学生生活を通して、「子どもが好き」だということを改めて認識したことです。実習やボランティアを通して、心の底から子どもが好きだということに気づきました。「初心忘れるべからず。」この気持ちをいつまでも持っておきたいです。



専攻科(福祉専攻)

福祉のリーダーを育成

専攻科(福祉専攻)主任 花畑 明美

本学の専攻科(福祉専攻)は、入学要件としての保育士資格を取得後、一年間で介護福祉士資格取得を目指して、講義・演習・年4回の介護現場実習を行い、介護福祉士国家試験合格に向けて学生と教員とが一丸となって励んでいます。今年も国家試験受験に向けてクラス全員で学ぶ姿勢に感動を覚えました。また、専攻科修了生の多くは保育士資格に併せて、社会福祉主事任用資格、幼稚園教諭(二種)免許を取得しているため、専攻科修了後は、宮崎県内の高齢者・障がい者施設や保育所・幼稚園など幅広い福祉・幼児教育分野で活躍しています。本学修了生は、建学の精神「礼節・勤労」の教えを学び身につけることで、福祉・教育者としては勿論、礼節ある社会人として社会に貢献する姿勢が県内外の就職先から高い評価を頂いております。今後益々、本学修了生が地域のあらゆる場面でリーダーとなり活躍してくれることを願っています。



成長の実感

専攻科(福祉専攻) 青木 夕季乃

専攻科に入学して、自分が変わったと実感することがひとつあります。それは、コミュニケーション力です。私はこれまで、人との会話があまり得意ではありませんでした。今振り返ると、自分のことばかりを話す傾向に原因があったのだと思います。専攻科では、コミュニケーション技術という科目があります。その中で、相手の気持ちを受容することの重要性を詳しく学び、自分に足りなかったのはこれだったんだと気づきました。これらのことを介護実習でも意識し、尊厳の重要性についても学ぶことができました。また、日常生活においても友達との会話が弾み、相手のことをより知ることが出来るようになったと感じています。他にも、専攻科に入学して学んだ様々なことがありますが、それらを大切にしながら今後の社会生活に活かしていきたいです。



現代ビジネス科

「自分に挑戦、時代に挑戦、地元で挑戦」ジモトライ

現代ビジネス科長 矢田 憲太郎

現代ビジネス科が誕生して今年で6年になります。学科開設以来、地域社会や地元産業界、地域行政機関との連携協力を深めながら、地元産業界の将来を担う若者や医療関係機関のチームの一員として地域医療を支える人材育成に取り組んできました。50年以上の歴史を積み上げてきた保育科に比べ、知名度はまだまだではありませんが、地域産業界や医療関係機関からの信頼や期待は確実に高まってきていると感じています。

今後とも、現代ビジネス科が学生と保護者の皆様の期待や地域社会や時代のニーズに応えることのできる高等教育機関として必要とされるために、本学の新しいスローガン「自分に挑戦、時代に挑戦、地元で挑戦」ジモトライの精神を学生に醸成させ、将来の地域社会を支えていくことの出来る人材育成に積極的に取り組んで参りますので、更なる皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



秋の忍ヶ丘祭
各コース達成感満載



かのうinフェスタ
地域活性化に貢献



企業見学
6次産業化を学ぶ



グローバルフォーラム
学習成果発表と意見交換会

挑戦から得たこと

現代ビジネス科 ビジネスコース1年 高平 芽依

私はこの一年で、自ら挑戦することの大切さを学びました。高校時代は、人前に立つことが苦手で、機会があってもなるべく避けるようにしていました。しかし、就職活動が近づくにつれてこのままではだめだと感じるようになり、様々なことに挑戦しました。一つは、オープンキャンパスで、高校生や保護者に向けてプレゼンをしたことです。人前でプレゼンをしたことがなく不安でしたが、緊張しているのは高校生達も同じだと思い、笑顔で話すことを心掛けました。もう一つが地域交流推進委員会での発表です。地域の方々の前で話をするのはとても緊張しましたが、自分たちが授業で活動したことをしっかりと伝えることができたので良かったです。

これらの体験が、自分の自信に繋がったと強く感じています。人に頼まれてからではなく、積極的に挑戦することでより成長することができるのだと学びました。今後も苦手なことにも挑戦し、得意なことに変えていけるように努力していきたいです。



充実した時間にするために

現代ビジネス科 医療事務・医療秘書コース1年 鴨田 明音

私は大学での二年間を大切に過ごしたいと考えています。そのために、友人と過ごす時間も含め、できる限り充実したものにしたいと思っています。

入学の頃から、就職先として医療機関を選ぶのか一般企業を選ぶのか迷っていました。そして、医療専門科目の学びを深めていく中で、企業について知る機会も欲しいと思うようになりました。コースの中で唯一の参加者であることは大きな不安でしたが、この思いを少しでも解決しようと、夏休み期間中に一般企業でのインターンシップを申し込みました。インターンシップでは受け入れ企業のご好意により、考えていた以上の多くの経験をさせていただき、心から参加して良かったと思いました。

これから、医療機関実習Iが始まります。新たな気持ちで一生涯懸命に向かい合い、インターンシップでの学びを更に深めたいです。限られた短大生活を誰よりも充実した時間にするために、経験できることへの挑戦を続けます。

